

【2011/2012 スピードスケート国際大会派遣選手選考基準】

「国際大会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、選考委員会にて選考し、理事会で最終決議され承認される。」

編成方針

1. ソチオリンピックで十分な活躍が期待される選手、将来有望な選手の中から選考する。
2. 礼儀を尊び規律を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員を持って編成する。

1. W杯前半戦：チェリャビンスク・アスタナ・ヘレンベーン（全距離）

① 昨年実績により以下の種目の選手を内定とする。

- ・ 小平 奈緒：500m（W杯総合5位 世界SP①2位）、1000m（W杯総合4位）
- ・ 辻 麻希：500m（W杯総合7位）
- ・ 長島圭一郎：500m（W杯総合6位）
- ・ 加藤 条治：500m（世界SD2位 W杯総合3位）
- ・ 石野枝里子：3000m/5000m（W杯総合5位 世界SD3000m5位）
- ・ 穂積 雅子：3000m/5000m（世界AL5000m3位 世界SD5000m4位）

② 上記内定選手以外の選考は全日本距離別選手権大会の各距離順位を重視し選考する。オリンピックの強化の観点やチームパシュートの編成などを勘案し選考する場合もある。

2. 世界オールラウンドアジア地区予選会（カザフスタン・アスタナ）

派遣数：男子2名・女子4名

全日本選手権の総合順位を重視し選考する。オリンピックの強化の観点、3種目総合順位など総合的に勘案し選考する場合もある。

3. アジア距離別選手権大会（カザフスタン・アスタナ）

世界オールラウンドアジア地区予選会の出場者を選考する。

4. 世界オールラウンド選手権大会（ロシア・モスクワ）

アジア枠：男子2名 女子4名

アジア地区予選会で獲得した参加枠によって原則下記の通り選考する。

男子① 2名枠獲得の場合：アジア地区予選会に参加した選手2名を選考する。

- ② 1名枠獲得の場合：アジア地区予選会の成績を重視するが、3種目総合順位および5000mの成績、尚且つオリンピックの強化の観点など総合的に勘案し選考する場合もある。

女子① 4名枠獲得の場合：アジア地区予選会に参加した選手4名を選考する。

- ② 3名枠獲得の場合：全日本選手権総合1位の選手とその選手を除くアジア予選会上位2名

の選手を選考する。

③ 2名枠獲得の場合：全日本選手権総合1位の選手とその選手を除くアジア予選会上位1名の選手を選考する。

④ 1名枠獲得の場合：アジア地区予選会の成績を重視するが、3種目総合順位および3000mの成績、尚且つオリンピックの強化の観点など総合的に勘案し選考する場合もある。

5. 世界スプリント選手権大会（カナダ・カルガリー）

対象競技会：全日本スプリント選手権大会

出場枠：男子3名 女子3名

① 男女共に全日本スプリント総合順位を重視し選考する。3種目総合順位やオリンピックの強化の観点など総合的に勘案し選考する場合もある。

6. W杯／ソルトレイクシティ（短距離）

①前年度の成績でワールドカップ競技会にワイルドカードを持つ選手が前半戦に当該種目に出場せずに後半戦に出場の意思を表明した場合、選考する。

②W杯前半戦に出場し総合ポイントランキング24位以内に位置している選手を選考する。但し、24位以内に出場枠以上の選手が該当した場合は、それらの半数を目安に内定とする（5人の場合2名、4人の場合2名、3人の場合1名、2人の場合1名）。それ以外の枠数は、全日本スプリントの順位を重視し選考する。

③上記①②の条件を満たしていない場合でも全日本スプリント、ジャパンカップ、W杯前半戦の結果、オリンピック強化の観点など総合的に勘案し若干名選考する場合もある。

7. W杯／ハーマル（中長距離）

①前年度の成績でワールドカップ競技会にワイルドカードを持つ選手が前半戦に当該種目に出場せずに後半戦に出場の意思を表明した場合、選考する。

②W杯前半戦に出場し総合ポイントランキング24位以内に位置している選手を選考する。但し、24位以内に出場枠以上の選手が該当した場合は、それらの半数を目安に内定とする（5人の場合2名、4人の場合2名、3人の場合1名、2人の場合1名）。それ以外の枠数は、全日本選手権の順位を重視し選考する。

③上記①②の条件を満たしていない場合でも全日本選手権、ジャパンカップ、W杯前半戦の結果、オリンピック強化の観点など総合的に勘案し若干名選考する場合もある。

8. W杯／ヘレンベーン・ベルリン（全距離）

原則、W杯ソルトレイクシティ（短距離）・ハーマル大会（中長距離）までのポイントランキングが総合24位以内に位置する選手を選考する。

9. 世界距離別選手権（オランダ・ヘレンベーン）

- ① W杯ヘレンベーン・ベルリン大会の代表になった者で、世界距離別選手権大会の有資格者の中から選考する。
- ② 各距離最大エントリー枠を超える資格を有する場合、以下の優先順位で選手を選考する。
 - 1) W杯総合ポイントランキングで日本人最上位者。但し、女子 5000m・男子 10000mはW杯 2大会のポイントの合計を優先する。
 - 2) 当該年度に ISU で公認される最高タイムの選手を選考する。
ただし、1) と 2) が同一選手の場合、その選手を除いた中で当該シーズンの W 杯で最高順位の選手を選考する。（同順位の場合は次に位置する順位の選手を選考する）
 - 3) 残りの 1 名は W 杯最終戦の上位選手を選考する。但し、500mは 2 回の合計タイムとし、また女子 5000m、男子 10000mはW杯 2 大会、世界 AR 選手権大会におけるタイムランキングを重視し選考する。
- ③ チームパシュートの選考は、原則本大会に選考された選手の中より選抜してチームを編成する。

10. 2012/2013 ワールドカップ前半戦の内定について

2011/2012 シーズン以下の成績を収めた選手を内定とする。

- ① 世界距離別選手権大会 6 位以内
- ② W杯ポイントランキング 6 位以内
- ③ W杯種目別優勝者 2 回以上
- ④ 世界スプリント選手権で単種目 3 位以内
- ⑤ 世界オールラウンドで単種目 3 位以内
- ⑥ 日本選手の中で群を抜く成績や上記①～⑤に匹敵する成績を収め強化委員会で認めたもの。
- ⑦ 各種目の選考人数は参加枠の半数程度までとし、最大 3 名とする。

* 上記選考基準では判断できない場合は、選考委員会の協議によって選考する。